

## 薬学部の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について

### 創薬科学科

#### 1. 学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】

本学部（創薬科学科）において学んだ学生は、卒業（学位の授与）に際して、以下の目標に到達することが期待される。

##### | 1 | 知識・理解

化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学及び医療系薬学を基盤とした幅広い知識を理解し、論理的に思考できる。

医薬品の研究開発を推進するための基礎知識を理解している。

医薬品研究に関する内容を専門でない人にも説明できる。

##### | 2 | 専門的な技能

科学的な思考力に基づいて研究を遂行するのみならず、問題を解決する基礎的な能力を持っている。

研究の様々な課題を解決できるとともに、広く展開できる基礎的な能力を持っている。

医薬品の研究開発を推進するための基礎的な技能を修得している。

創薬研究者あるいは教育者としての基本的な素養を修得している。

##### | 3 | 汎用的な技能

社会の要望に応える研究を実施するための課題の設定および解決に必要な基礎能力を持っている。

専門分野以外の異なった研究分野の理論、技術、発想を取り入れた実験を展開できる。

プレゼンテーションおよび討論の基礎的な能力を持っている。

国際的に活躍できる基礎的な能力を持っている。

##### | 4 | 態度・志向性

主体的に研究を遂行できる基礎的な研究能力を持っている。

医薬品開発研究者としての深い感性や高い倫理観を持っている。

共同研究に参画できる基礎的な技能や態度を修得している。

#### 2. 教育課程の編成・実施について基本方針【カリキュラム・ポリシー】

学生が上記の目標（ディプロマ・ポリシー）に到達するため、以下のようなカリキュラムを編成する。本学部（創薬科学科）の教育課程の特色は、人体や病気に関する化学や生物などの基礎科目を人体・病気・薬と関連付けて学ぶことである。

#### 【カリキュラムの基本構造】

4年の教育課程のうち3年間を基礎としての教育を行い、最後の1年間は応用的能力を養うために卒業研究（特別実習）を行う。

3年間の基礎教育課程の教育では、創薬科学や生命科学などに対応できる基礎的能力を獲得するため、これらの領域をカバーする化学系、物理系、生物系、環境系および医療系の講義を受講する。

4年次に行う卒業研究（特別実習）では、研究室に所属して、経験豊富な教員の指導の下で、個別に最先端研究に取り組み問題を解決する能力の向上を図る。

専門的な科目のみならず、人文科学についての講義も幅広く受けることができる。国際的に活躍する能力を養うために、異文化や言語文化に関する教養教育を行うと共に、英語による成果発表のための演習を実施する。

### 3. 入学者受け入れの方針【アドミッション・ポリシー】

#### 1 | 求める学生像（知識、能力、適性等）

薬を創るという強い意志を持つ学生の入学を期待する。

高等学校卒業レベルの十分な基礎学力を持つとともに、理科学目（化学、生物および物理）に対して興味や関心を持つ学生の入学を期待する。

国際的に活躍できる人材の養成を目指しているため、十分な英語の基礎学力を持っている学生の入学を期待する。

#### 2 | 入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等)

##### 【一般入試（前期日程）】

高等学校卒業レベルの十分な学力を持ち、薬学の諸科目を学修し、薬を通して社会に貢献できる素養をもつ学生を選抜するために、大学入試センター試験で5教科7科目を課すとともに、個別学力検査（前期日程）では数学、理科、外国語の試験を課し、基礎学力および論理的思考能力を判定する。

##### 【一般入試（後期日程）】

高等学校卒業レベルの十分な学力を持ち、薬学の諸科目を学修し、薬を通して社会に貢献できる素養をもつ学生を選抜するために、大学入試センター試験で5教科7科目を課すとともに、個別学力検査では外国語試験に加え、面接を課し、読解力、批判的な思考能力、表現力などを総合的に判定する。

##### 【転学科について】

臨床薬学科への転学科については、選考の上、若干名これを許可する制度がある。